

救急医療や 脳卒中学ぶ

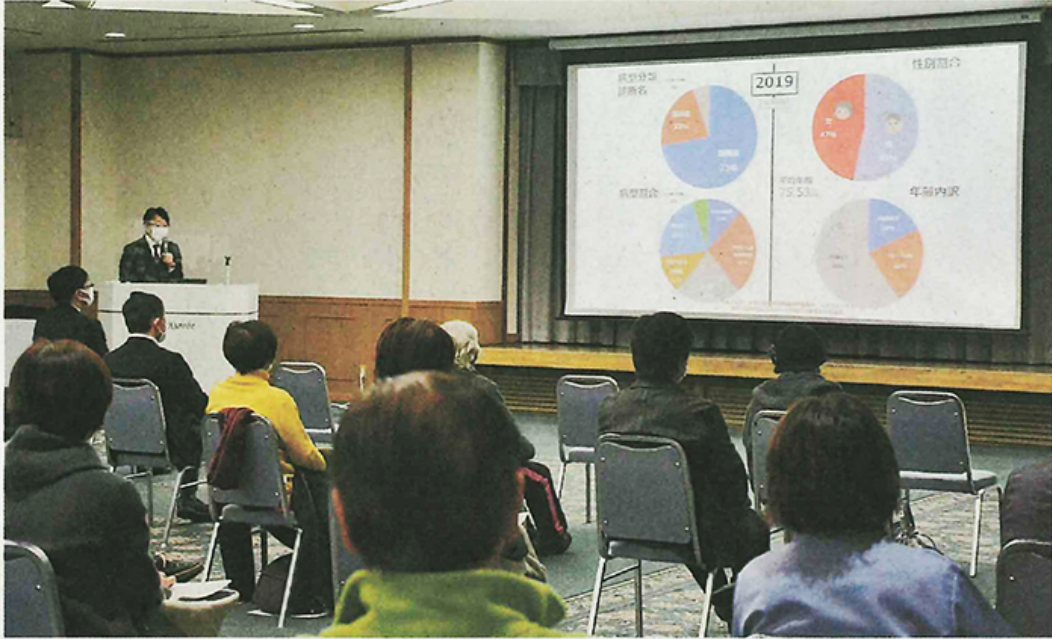
市民フォーラム

北見市内の医療機関や社会福祉団体がつくる「北見市医療福祉情報連絡協議会」は5日、ホテル黒部で「救急医療情報と脳卒中の治療」と題した市民フォーラムを開き、協議会が運営する救急搬送サポートシステム「北まるnet救急医療情報（北まるネット）」などについて説明した。

北まるネットは、登録した市内の65歳以上が要支援・要介護認定の人が救急搬送される際に、救急隊員が傷病者の情報を確認できる仕組み。

70人が参加したフォーラムで、協議会の木村輝雄会

北まるネットや脳卒中について学んだフォーラム



長は、2019年にオホーツク管内で確認できた脳卒中の症例のうち75歳以上が

6割を占めることや、脳卒中の治療は患者の情報や家族の連絡先などを素早く把握し、適切な治療につなげることが重要と説明。高齢者によっては認知症で自分の意思を伝えられない人も

いることから、「自分が望む医療を家族に伝えたり、北まるネットに情報を登録したりして、意思表示をしいてほしい」と訴えた。（本田みなみ）